

看護専門教育における「4つのカスタートアップセミナー」を活かした教育方略に関するFD学習会

著者	種田 ゆかり, 犬丸 杏里, 杉山 泰子, 北川 亜希子, 中西 唯公, 福録 恵子, 畑下 博世, 成田 有吾
雑誌名	三重看護学誌
巻	16
号	1
ページ	67-71
発行年	2014-03-15
その他のタイトル	Documents of the faculty development workshop in 2012 at Nursing School practical application of Four Key Abilities Start-up Seminar for Nursing School
URL	http://hdl.handle.net/10076/13836

看護専門教育における「4つのカスタートアップセミナー」 を活かした教育方略に関するFD学習会

種田ゆかり¹, 犬丸 杏里¹, 杉山 泰子¹, 北川亜希子¹
中西 唯公², 福録 恵子¹, 畑下 博世¹, 成田 有吾¹

Documents of the faculty development workshop in 2012 at Nursing School
— practical application of “Four Key Abilities” Start-up Seminar
for Nursing School —

Yukari TANEDA, Anri INUMARU, Yasuko SUGIYAMA, Akiko KITAGAWA
Yuko NAKANISHI, Keiko FUKUROKU, Hiroyo HATASHITA and Yugo NARITA

Key Words: Faculty development workshop, First-year education

I. はじめに

日本の大学における Faculty development (以下「FD」という)が2008(平成20)年度の国の大学設置基準改正で義務付けられ、看護系大学においても様々な取り組みが行われている。本学科においても若手教員のニーズや教育の質の保証・向上のためにFD委員会のメンバーが中心となり積極的に活動している。

本学科は総合大学の中の医学部看護学科であるという特性を活かし、教育法を強化することをFDの趣旨として、Good Teaching ツアーと称する授業評価の高い他学部の教員の講義見学や、初年次教育科目である全学共通の「4つの力」スタートアップセミナーの参観などを盛り込んでいる。看護学科内だけに留まらず、学内の他学部との交流や情報交換を取り入れて、看護教育に幅広い視点をとり入れることができるようなFD活動を行っている。

「4つの力」スタートアップセミナーとは、2009年度から開講した本学特有の初年次教育科目で、高校から大学へのスムーズな移行をめざし、大学での学びに必要な知識やスキル、大学生活への適応を目指すことを主な学習内容(長濱ら, 2011)としている。スタートアップセミナーの特色の一つは、本学の教育目標を直接的に取りあげて、グループ活動を基盤とした授業形態にある。グループ活動を通して、プロジェクトを

遂行するスキルやコミュニケーションスキル、協調性などの育成を目指している(長濱ら, 2011)。これらの力は、高度な医療に対応できる実践力や判断力、チーム医療を円滑に遂行するための連携・協働といった看護の現場においても必要な力でもある。そのため、看護基礎教育においても、それらの力が培われ磨かれるような取り組みが大切である。

そこで、看護教員として、学生が受講している大学初年次教育を知り、その後の看護専門教育に活かすことは大きな意味があり、教員としての資質向上に繋がる。今回、看護専門教育におけるスタートアップセミナーを活かした教育方略に関するFD学習会を実施したので、その取り組みについて報告する。

II. 本学の教育背景

人文学部、教育学部、医学部、工学部、生物資源学部の5つの学部からなる総合大学である。幅広い教養の基盤に立った高度な専門知識や技術を有し、地域のイノベーションを推進できる人財を育成するために、4つの力「感じる力」「考える力」「コミュニケーション力」、それらを総合した「生きる力」を養成することを教育目標に掲げている。特に、キャリア教育、PBL教育、eラーニングなどに力を入れている。その中のキャリア教育の一つとして初年次教育:「4つの

1 三重大学医学部看護学科

2 順天堂大学医療看護学部

力」スタートアップセミナーを実施している（三重大学広報室，2012）。

III. ねらい

看護専門教育における初年次教育「4つの力」スタートアップセミナーを活かした教育方略に関するFD学習会の取り組みを振り返る。また、学習会の目的であったスタートアップセミナーの教育状況を把握すること、スタートアップセミナーと看護教育への連携の在り方、課題について検討する。

IV. 研修の実際

1. 学習会のテーマ・目的

学習会のテーマは、「看護専門教育におけるスタートアップセミナーを活かした教育方略」とし、スタートアップセミナーを活かした看護専門教育におけるPBL教育を含む教育方略を検討、熟考し、自らの教育改善に資することをねらいとした。具体的な目的は、①スタートアップセミナーの教育状況を把握する。②スタートアップセミナーと看護教育への連携（つながり）の在り方、課題等について検討することとした。

2. 学習会の対象

全ての教員を対象とした。

3. 学習会日程と内容

1) 学習会日程

学習会は、事前準備を行った上で、全3回実施した（表1）。全ての回の連続参加が望ましかったが、単発での参加も可能とし途中参加しても内容がわかるように考慮した。

2) 参加者

参加者は、第1回は25名（83%）、第2回は21名（70%）、第3回は19名（63%）であった。回を重ねる毎に参加者数は減少した。職位別で見ると、第1回はどの職位も高い出席率であるが、2回目以降、教授の参加率が低くなった。講師、助教は高い出席率であった（表2）。

3) 事前準備

学習会へのスムーズな導入のため、事前準備として学科の全教員に「スタートアップセミナーの実際の授業を参観する」か、または参加できない場合はFD学習会前に回覧し、「スタートアップセミナーの授業の様子を録画したDVD」を視聴することを学習会へ参加する際の条件とした。

4) 第1回

第1回目は、高等教育創造開発センター（Higher Education Development Center: HEDC）専任教員で、スタートアップセミナー担当教員によるスタートアッ

表1 学習会内容

	日 時	内 容	参加者
事前準備	各自で適宜	スタートアップセミナー授業の見学，DVDの視聴 学習状況の把握	
第1回	H24年6月6日（水） 17：00～18：30	スタートアップセミナーについて 講義，DVD視聴	25名（83%）
第2回	H25年7月25日（水） 17：30～18：30	スタートアップセミナーで看護専門教育に活かせることは何か グループワーク	21名（70%）
第3回	H25年8月1日（水） 17：00～18：30	スタートアップセミナーと看護専門教育の連携を考える 講義，グループワーク	19名（63%）

表2 参加者内訳

職 位	人 数	第1回参加人数	第2回参加人数	第3回参加人数
教 授	9	7（77.8%）	5（55.6%）	4（44.4%）
准教授	8	6（75.0%）	4（50.0%）	5（62.5%）
講 師	2	2（100%）	2（100%）	2（100%）
助 教	11	10（90.9%）	10（90.9%）	8（72.7%）
合 計	30	25（83.0%）	21（70.0%）	19（63.0%）

セミナーの概要説明を講義形式で実施した。ここでは、授業のねらい、授業内容（表3 FD学習会資料より抜粋）、学習活動促進の工夫や学生の学びの具体例に関して、実際の講義風景のDVD視聴を交えながら講義を受けた。学習活動促進の工夫としては、①各回の学習目標設定と目標達成の振り返り、②毎回の授業における講義の位置づけ、③課題の明示の仕方や全員が活動に参加できるような工夫といったグループディスカッション促進の工夫、④課題探求活動を促進するようなワークシートの工夫、⑤ICTの活用、⑥授業をサポートしている上級生の存在が挙げられた。実際の学生の学びの具体例としては、アイデア発想の手法や批判的思考スキルといった学習スキルや、プレゼンテーションの方法といった発表スキル、アサーションスキルといったグループワークスキルを学んでいることがわかった。

5) 第2回

第2回目は、「スタートアップセミナーで看護専門教育に活かせることは何か」というテーマでグループワークに取り組んだ。第1回目から継続して参加したのは19名で、継続参加率は90.4%、第2回が初回参加であったのは2人(9.5%)であった。

グループワークでは、1グループの人数を3名~4名とし、助教も発言しやすいようにできるだけ同じ職員の教員同士でグループを編成する工夫をした。また、学習会担当講師やファシリテーターが進行状況を確認しやすく、他グループへの発表時にわかりやすいように、各グループにパソコンとプロジェクター、スクリーンを用意し、投影しながらディスカッション、ワークを実施した(写真1)。

具体的には、①現状・実働把握のために、「どれほどスタートアップセミナーで習った知識や経験を教員が活用しているか」②「何か工夫している点はあるか」③「現状からの改善点」についてグループでディスカッションした。

その後、学生がスタートアップセミナーで実際に実施しているように、グループ間を移動しながら、ディスカッション内容を共有した。その中で、看護教員側がスタートアップセミナーを意識して、専門教育(講義・演習・実習)に十分に活用できていないことや、看護という専門領域において確実に押さえておかないといけない知識や技術教育という視点での課題があることがわかった。その一方で、各教員が授業において発問方法を工夫したり、グループ編成を考慮していることもわかった。また、2年前からFD活動の一環として実施している公開授業は、領域間の情報共有の場にもなっていることがわかった。

6) 第3回

第3回目は、再度スタートアップセミナー担当教員によるまとめの講義と第2回目を踏まえて、「スタートアップセミナーの授業構造、グループ活動活用について」、「看護教育における科目間連携について」の2つのことをグループワークで議論した。第1回から第3回まで継続して参加したのは16名で84.2%であった。

グループワーク時、最初の3分間で個別にアイデアを準備し、その後の10分間でアイデアを出し合い簡潔にまとめるという作業をおこなった。これは、前回



写真1 グループワーク風景

表3 授業内容

回数	テーマ(主に関連する4つの力)	回数	テーマ(主に関連する4つの力)
第1回	導入、大学での学び(モチベーション)	第8回	プロジェクトのピアレビュー(感性, 共感)
第2回	グループ活動の基本(社会人としての態度)	第9回	情報の吟味(批判的思考力)
第3回	アイデアの発想(感性)	第10回	レポートの作成(論理的思考力)
第4回	テーマの設定(課題探究力)	第11回	発表の方法(情報受発信力)
第5回	情報の種類と特徴(情報受発信力)	第12・13回	プロジェクト発表と評価(統合力)
第6回	計画の立て方(問題解決力)	第14回	プロジェクトの振り返り(統合力)
第7回	情報収集における手順とマナー(倫理観)	第15回	全体の振り返り(統合力)

同様学生がスタートアップセミナーで実施しているグループディスカッションや発表の方法と同じである。学生と同じ方法で教員自らグループワークを進めていくことで、スタートアップセミナーを疑似体験した。

ディスカッションしていく中で、現在の学生の特性や実情が浮き彫りになった。その上で、授業の組み立て方、目標設定・提示方法、授業の進め方、教材の工夫・活用方法など多岐にわたり議論された。助教から教授まで幅広い職位の者が、領域が異なるそれぞれの立場で議論したことで、スタートアップセミナーと看護教育への連携（つながり）の在り方、課題等が明らかになっただけでなく、専門教育における講義や演習・実習における連携の重要性を再認識した。

4. FD 学習会を振り返って

今回の学習会に関して、参加者の反応は概ね好評であった。自校が目指す教育目標を改めて見直し、初年次教育の具体的な内容を知り理解することで、自分自身の授業を振り返り考える機会となった。また、初年次教育を看護という専門分野に今後どのように活用していけばよいかも検討することができた。

V. 考 察

FD 学習会への参加は、全教員参加とはいかなかったが、若手教員に限らず助教、講師、准教授、教授と全ての職位の教員が参加し、出席率は概ね良好であった（表 1）。石田（2010）は、近年の看護系大学の急激な増加に伴い、看護職者のキャリアアップが進むなど、看護系大学の新人教員の教育・臨床経験などの深淺は多様化していることから、新任教員に対する FD をどのように推進するかは、看護系大学の組織全体としての教育力を高める上で重要であると述べている。

そのため、新任教員あるいは若手教員を対象とした FD が多いが、実践者から教育者への転向、または、その逆など、教員の流動性の激しい看護系大学の現状に鑑み、職位が教員としての step up に必ずしもリンクしない場合が多く、また、大学によっては職位ごとの役割が大きくなりすぎたため、職位は FD の対象となる教員の区分として必ずしも適切ではない（和住ら、2013）。このことから、どの職位であっても FD に参加することはとても重要である。また、FD は個々の教員より教員集団全体の資質向上を目指している（有本、2006）。本学でも、教員集団全体の資質向上を目指し、テーマやプログラム、運営方法を工夫し、参加者を若手教員に限定せず全教員を対象とした。その結果、職位も教育歴も様々な教員が参加し、それぞれ

の立場での学びや気づきがあり、またそれを共有することができた。

今回、学習会で看護専門教育だけでなく、専門科目以外の科目も含んだ広い視点での教育について考えたことは、大きな意味があった。看護の対象は病気ではなく病気を有する人間である。看護職には病気に関連する理科系の知識だけではなく、人間の生き方や社会の仕組みにつながる社会科学系の知識も必要である。この意味でも、看護大学教育でのリベラルアーツの充実是不可欠である（鷲尾ら、2011）と言われている。

しかし、教養教育に対する教員相互の積極的な連携や大学全体での取り組みや協力体制は少なく、学生の関心も高くはない等、教員は教養教育の現状について多くの課題を持っている（大見ら、2012）。このような現状の中、今回の目的の一つである本学が特徴的に取り組んでいる初年次教育「スタートアップセミナー」の現状を知ることができたことは、看護専門教育以外の科目での教員相互の積極的な連携にもつながると同時に、看護専門教育における講義や演習・実習における領域間の連携の必要性を再認識し、今後の看護専門教育を担っていく上で非常に重要であったと考えられる。まずは、教員が初年次教育であるスタートアップセミナーに関心・意識を持つことから始めなければならない。

VI. 結 論

学生に対して自校教育を充実させる大学が増えてきているが、FD においてもその大学の教育理念をさまざまな形で浸透させることが望まれる（小山田、2011）ことから、今回、看護専門教育における初年次教育「4つ力」スタートアップセミナーを活かした教育方略概論に関する FD 学習会の取り組みは有意義であった。

しかし、初年次教育との具体的な連携と、看護専門教育での活かし方に関しては、まだまだ検討の余地はある。看護学生は、スタートアップセミナーのグループ活動を通して、プロジェクトを遂行するスキルやコミュニケーションスキル、協調性などを学んだことは、多種多様な人間を対象とした看護職を目指す上で、基礎的な力を養っている。学生の力を決して埋没させしまわれないように、我々教員は、少なくともそのことを忘れずに授業や演習、実習に繋げることができるよう、まずはスタートアップセミナーに関心を持ち、意識しなければいけない。

文 献

- 有本章 (2006) : 教師の資質向上を支える FD 活動—その必要性と課題—, 看護展望 31(3), 17-23
- 石田佳代子 (2010) : 看護系大学の新人教員に対するファカルティ・ディベロップメント (FD) 推進のための文献調査に基づく課題, 看護科学研究 9, 10-18
- 長濱文与, 中島誠, 中山留美子 (2011) : 「4つの力」スタートアップセミナー 授業補助者のためのガイド 三重大学
- 三重大学広報室 平成 24 年度 国立大学法人 三重大学概要 <http://www.mie-u.ac.jp/report/about.html>
- 大見サキエ, 河野由美, 酒井郁子他 (2012) : 看護系大学における教養教育に関する研究—質問紙調査による教養教育に対する教員の認識— 日本看護学教育学会誌 22(2), 41-53
- 鷲尾昌一, 矢野正子 (2011) : 看護大学教育に求められるもの リベラルアーツ (一般教養) の重要性, 看護教育 52(9), 776-777
- 和住淑子, 遠藤和子, 黒田久美子ほか (2013) : 看護学教育における FD マザーマップの開発 (1) FD マザーマップ試案作成までの道のり, 看護教育 54(3), 193-199
- 小山田恭子 (2011) : 看護系大学における FD 推進の課題, 日本看護学会誌 31(2), 99-100

キーワード : FD (Faculty development) 学習会, 初年次教育